出艇条件

条件

①人数

・2 名以上。

・2 名または 3 名のグループを作ること。

・グループごとに必ず責任者をつけて、そのグループの人はその人の指示に従い、その人中心にレスキューすること。

・出艇者のうちに必ずプレーニングできる人がいること。

・出艇したいのに横国内で出艇できる人が見つからなかった場合。

　→早稲田の人に個人で連絡。トラブルの責任は個人間でとってもらう。1 年生に関しては必ず横国の上級生と出艇する。

②風速

江の島風速計、逗子マリーナの両方で以下の条件が 10 分以上継続していること。

また、windy 等の風速予測を活用し風の変化に十分注意すること。

【南風(SW,SSW,S,SSE,SE)の場合】

平均風速 9[m/s]以下かつ最大風速 11[m/s]以下

※テトラ裏に流されないように十分注意する。また、その危険がある海域では練習を行わない。

【南風以外の場合】

平均風速 8 [m/s]以下かつ最大風速 10[m/s]以下

※プレーニング、ストラップハーネス風域の場合は 5 分に 1 回テトラ内に戻る。

※ただし、上記以上の風域で自主練したい場合、自分のレベルを考え、必ず無理のない風域で練習すること。

※少しでも危険を感じたらすぐ着岸すること。

③持ち物

以下のものを身に着けて出艇すること。

【個人】

・ライフジャケット

・ハーネス

・レスキューシート
・携帯電話（十分にバッテリー残量があること）
・笛
・（水分）

【代表者】
・予備ジョイント

④報告
【出艇】
・前日までに誰が出るか報告。
・艇庫の札を返す。
※札を返していないと松田さんからのレスキューを受けられない可能性がある。
・上記のグループごとに出艇者名を申告（LINE）
・出艇者名(LINE)
・着岸申告(LINE)

⑤着岸時刻
CRB の貼り紙には安定した気候の場合は個人の判断に委ねると書いてあるが、学生は厳守すること。帰着開始時刻ではなく完全帰着時刻なので注意。
・3～4 月 17:00
・5～8 月 18:00
・9 月 17:00
・10~11 月 16:30
・12～2 月 16:00

流された場合

注意点
①単独行動は避ける。
②現在の状況を確認する。
③グループ内の 1 名が帰着不可となった場合はそのグループでレスキューを行うこと。また、他のグループは着岸しレスキューを行っている旨を LINE グループ、松田さんに報告する。（艇庫に上級生がいた場合は、同様に報告）

→もし 1 人が流された場合、レスキューする人以外は直ぐに着岸すること。

手順

1 レスキューする。

以下の a～c から選択する、組み合わせる。(3 分以上セールアップが出来ない場合。・道具が壊れた場合)

a. 海上解体（レスキューする人を X、される人を Y とする。）

（1）X と Y のボードをレスキューシートで結ぶ。X の艇の後ろストラップ、Y 艇のノーズの空間の部分を使って繋ぐ。また、紐が短すぎると引っ張る際に・接触する。・方向 転換がしにくい。等の問題が起こるので、艇間が 50cm～1m になるように結ぶ。
※レスキューシートが XY の 2 つあることが前提である。もし仮に 1 つしかない場合は(2)❼に取っとく必要があるので、この際はダウンを使う。

（2）解体作業
風速 6[m/s]以上の場合は必ず解体すること。また、所要時間は 5-10 分なので落ち着いて行動すること。

❶X が Y のボードに乗り移り、Y は海中に入ってブームエンド側に回る。
❷X はダウンを外し、ブームに括り付ける。Y はアウトを外す。
❸X がブームをマストから外す。
❹ブームをセールから取り外す。この際にジョイントをボードから外す。外したブームは Y のボードに置き、X がまたがって作業する。
❺エクステ、マストを取り外す。この際、Y はマストトップ側に回ってセールを抑えて、X が引き抜く。マストは Y のボードの上に置き、X がまたがって作業する。エクステはストラップに刺す。
❻❺と同時平行で、Y がマストトップ側からセールを巻く。セールは Y のボードの上に置き、X がまたがって作業する。
❼もう一つのレスキューシートでボードとリグを巻きつける。X が紐の先端を持ち、Y は紐をボードの下を通して X に渡す。紐がなくなるまできつく周回する。また、なるべくボードのノーズからテールまで幅広く巻きつける。
❽XY はそれぞれ自分のボードに戻る。Y はリグセットを抱きかかえる様にボードの上でうつ伏せになる。

（3）引っ張る。タックをする際にボードがひっくり返る事があるのでゆっくりタックをす

る。また、ブローに入る際は事前にXがYに伝える。

b. サップを取りに行く。
網に捕まらせてサップを取りに行く。網がない場合は他の人に見ていてもらう。

c. 早稲田等他大学に協力してもらう。
自力で出来ない場合は無理せず近くの先輩に頼る事。後で怒られるけど、船を呼ぶよりはマシ。

2 周囲の漁船レスキューを受ける場合

・事情を説明し、レスキューを受ける。
・レスキューしてくださった方の氏名、連絡先を確認する。
・その旨をウィンドサーフィン部 line グループに報告。（着岸直後）
・同様に、松田さんにも報告。（艇庫着直後）
・レスキューをしてくださった方にお礼をしに行く。

3 周囲に漁船がいない場合
・海上で松田さんに連絡し、レスキューが必要な旨を報告。対応を仰ぐ。
（所属、氏名、流された人数、セールナンバー、大体の場所を伝える）
・その後レスキューを受ける。
・ウィンドサーフィン部 line グループに報告。（着岸直後）
・レスキューをしてくださった方にお礼をしに行く。

4 周囲に船がおらず、松田さんとも連絡が取れない場合
・海上でセブンシーズに連絡し、レスキューが必要な旨を報告。対応を仰ぐ。
（所属、氏名、流された人数、セールナンバー、大体の場所を伝える）
・その後レスキューを受ける。
・ウィンドサーフィン部 line グループに報告。（着岸直後）
・同様に、松田さんにも報告。（艇庫着直後）
・レスキューをしてくださった方にお礼をしに行く。

5 上記でのレスキューが難しい場合
・海上保安庁（118）に連絡し、レスキューが必要な旨を報告。対応を仰ぐ。
（所属、氏名、流された人数、セールナンバー、大体の場所を伝える）

・その後レスキューを受ける。
・ウィンドサーフィン部 line グループに報告。（着岸直後）
・同様に、松田さんにも報告。（艇庫着直後）
・海上保安庁にて事情聴取

電話番号（携帯の連絡先に登録しておくこと）

・松田さん：090-8647-7679

・セブンシーズ：0467-22-5050

・海上保安庁：118

最後に

1 人で出艇するということは、海上で起きたことは全て自己責任になります。もし流されて漁船などの一般の人に助けてもらうと、部内だけではなく松田さんなど多くの人に迷惑がかかります。しっかり、マニュアルを守って出艇することを約束してください。